

☆産業建設常任委員会

しもかわ 下川町

・人口 3347人
 ・世帯数 1801世帯
 ・面積 644km²

視察先として選んだ理由

バイオマス産業都市構想に基づき先進的な取組みを行なっている町だからです。

レジエンドの故郷

下川町は北海道の北部に位置し、面積の9割を森林が占めています。

スキージャンプが盛んで、町内にはジャンプ台が4基もあります。レジエンドとして有名な葛西紀明選手^{かさいのりあき}の故郷であり、これまで7人のオリンピックを輩出するなど「スキージャンプの聖地」の町です。



▲木材のストックヤード

林業予算1億円

森林活用小規模自治体のモデルとして林業に力を入れ、民有林の路網密度は日本平均の倍以上です。毎年1億円を予算化し循環型森林経営を実施して、製材品出荷額は年間33億円に上ります。

再生エネルギー充実

平成21年4月に設置した「木質原料製造施設」は、

木質原料資源の収集から運搬、受け入れ、自然乾燥、燃料製造を行い、町内の施設に供給しています。当初は町直営でしたが、21年10月に設立した「下川エネルギー供給協同組合」に23年度から業務委託、24年度からは指定管理による委託を行なっています。29年度の約1820万円の利益は協同組合と町で折半し、町は機械更新のための基金として積み立てています。

この森林バイオマスエネルギー利用としては、町内に木質バイオマスボイラーを10基設置し、30施設に熱供給を行なっています。公共施設の熱供給のうち68%を再生エネルギーへ転換したことで、年間1900万円の経費削減ができました。

エネルギーで集落再生

21年度、集落再生を目的として町内の「一の橋地域」にエネルギーマネジメントシステムを取り入れ、計画的に集住化住宅22戸や

障がい者支援施設、郵便局等が入っている住民センター、特用林産物栽培研究所等を建設し、熱供給施設からの熱エネルギーで快適な空間を作り出しました。この取組みの着手前と現在を比較すると、21年度に51・6%だったこの地域の高齢化率は28年度に27・6%まで回復しています。先進的な取組みに共感した地域おこし協力隊の隊員が同地域に移住し、現役5人のほか退任して定着した方も3人います。



▲一の橋地区地域熱供給システム

産業へつなげる

下川町は「資源のあるところに産業が興る。エネルギーのあるところに産業が興る。」として、持続可能な環境未来都市を目指しています。

西川町では第6次総合計画の後期計画を策定中であり、地域資源活用型再生エネルギーをいかにまちづくりに活かすかということが大きな課題となっています。そのための取組みを行うにあたって下川町の施策は大いに参考にすべきものと考えます。

《まちづくりの主な成果》

- ★再生エネルギー
地域熱自給率が49%に
- ★個人住民税
21年度と比較して16.1%増
- ★人口減少緩和
転入者が転出者を上回る年も